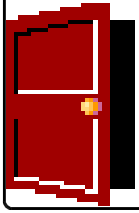


令和5年度《昨年度に続き、今年度も読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



# 読書活動への扉を開く！

No.37

桑村小学校 令和5年7月21日

文責：渡邊

## 読書体験から得たものを自分なりに表現！ 「お気に入りの一冊をあなたへ 読書推せん文コンクール」への取組

公益財団法人「博報堂教育財団」は、2020年より「お気に入りの一冊をあなたへ 読書推せん文コンクール」を実施しています。このコンクールの良さは、読書感想文と比較したとき文字数が250～300字と少なく、作文に苦手意識を有する児童も参加しやすいところにあります。また、自分の思いを伝える相手を特定することで、どのような思いを届けたいのかが明確になり、自分の感動を自分の言葉で表現する力が身に付くことが期待されます。

令和4年度から本校の児童は「読書推せん文」を書く活動を通して、読書から得た感動を特定の人たちに自分なりの表現の仕方で伝えることで、「豊かな感性」を育みました。

そして、今年度も「お気に入りの一冊をあなたへ 読書推せん文コンクール」へ参加することで、「豊かな感性」の育成を図りました。

子供たちの作品から、多くの子供たちが五感を働かせて、自分の読書体験から得たものを自分なりに表現していることが伝わってきました。この現れは、子供たちの中に「豊かな感性」が育まれている証ではないでしょうか。

以下に、子供たちの作品の一部を紹介します。

### 【第1学年】

【本の題名】 『しずくちゃん』（岩崎書店）

【すすめたい相手】 おにいちゃんへ

1年 あおやぎ ういかさん

ひとりでちじょうにきた「しずくちゃん」が、えんげきのしゅやくをやることになって、そのえんげきをどうしてもみたくなったおかあさんがないしょではじめてちじょうにくるところがよかったです。

それだけ「しずくちゃん」のことがだいすきなんだとおもいました。わたしのおかあさんもリレーかいにきてくれるし、わたしのことがだいすきなんだとおもったので、わたしはおにいちゃんにこのほんをつうじておしえてあげたいとおもいました。

わたしも「しずくちゃん」みたいに、おかあさんがおうえんにくるときはいちばんカッコいいすがたをみせたいです。

【本の題名】 『ことりようちえんのいちねんかん』（講談社）

【すすめたい相手】 クラスのおともだちへ

1年 むねとう はるなさん

ようちえんにいっていたときのことをおもいだせるえほんでした。うんどうかいもありました。

コロナだったのでプールはできなかったけれど、どろんこあそびやみずあそびはたのしかったです。おいもほりやおたのしみかいもたのしかったです。

ことりようちえんにかよっているあやちゃんは、たのしいことをいっぱいしてうらやましくなりました。

【本の題名】 『ペンギンきょうだいふねのたび』（ブロンズしんしゃ）

【すすめたい相手】 おともだちへ

1年 ひょうどう めいささん

このおはなしは、ペンギンのきょうだいで、これからきょうだい3にんだけでふねのたびにでかけます。おおきなふねにのっておじちゃんのいえにいきます。このとちゅうに、ちいさなしまにとうちゃくし、およいだり、うみのなかのさかなやマンタをみつけたりしていたよ。ごはんをたべて、せんちょうさんからかいがらのペンダントやきぼりのボートをもらったよ。だけど、おねえちゃんがうみにおとしちゃったんだ。そんなときイルカさんがひろってくれたんだよ。

いろいろあったけど、おおきなしまにとうちゃくして、おじちゃんにあえたよ。わたしもペンギンきょうだいみたいにたびにいきたいです。

## 【第2学年】

【本の題名】 『崖の上のポニョ』（徳間書店）

【すすめたい相手】 おじいちゃんへ

2年 森 大祐さん

この本は、たんじょう日に、おじいちゃんにかってもらいました。しゅじんこうの魚の女の子「ポニョ」が、そうすけという5さいの男の子に出会って、「ポニョ」も5さいの人げんの女の子になるまでのものがたりです。

魚の女の子がどうやって人げんになっていくのかをしりたくて、わくわくしながらよみました。いろいろなところにぼうけんをしたり、魚がたくさん出てきたりするところがすきです。

そうすけが、「ポニョ」にやさしいことばをかけたり、「ぼくが、まもってあげる。」といったことばが、とてもかっこよかったです。

【本の題名】 『赤いリボンのおくりもの』（金の星社）

【すすめたい相手】 桑っ子のみんなへ

2年 長谷川 ゆいさん

この本は、うさぎとおおかみときつねとさるたちが出てくるお話です。

なぜ、わたしがこの本をえらんだのかというと、しっばいしちゃった時に、みんなで力を合わせてたすけてくれる場めんがあるからです。

わたしがはじめてよんだとき、

「あっ、この本、すきになったかもしれない。」

と、こえに出してしまいました。その時、おかあさんは

「あら、赤いリボンのおくりもの、すきになっちゃったのかしら。ハハハ。」

と、わらいました。

わたしは、とてもうれしかったです。わたしは、この本が大好きです。こまっている人がいたら、みんなでたすけ合えるようにしていきたいです。

【本の題名】 『ぐりとぐら』（福音書店）

【すすめたい相手】 おやつが好きな人へ

2年 清水 寿々さん

わたしが一ばんおすすめするところは、どうぶつとぐりとぐらが大きなたまごを見つけ、カステラを作り、みんなでそれをたべるところです。なぜ、一ばんおすすめかというと、みんなでわけてかぞくやちがうどうぶつたちとたべていたからです。ぐりとぐらは、さいごに大きなたまごのからで、車を作っかえるところがおもしろかったです。ふしぎなところは、さいしょにこの本をよんだとき、大きなたまごを見て、ベッドよりも大きいなんてびっくりしました。

わたしもぐりとぐらが作ったカステラをたべてみたいです。いっぱいシリーズがあります。としょかんでさがしてみてください。

【本の題名】 『おおきくなったら きみなんになる？』（講談社）

【すすめたい相手】 友だちへ

2年 森 智哉さん

この本は、おおきくなったらなんになりたいのかを聞いているおはなしです。

なりたいものは、きっといっぱいあってみんなちがう。はなやさん、おいしやさん、サッカーせんしゅ、せんせい。いろいろなことをやっているうちに、なりたいもの、好きなことをみつけることができる。

ぼくは、やきゅうせんしゅになりたい。ゲーマーにもなりたい。また、あたらしいことをみつけたら、かわってしまうかもしれない。だけど、やりたいこと、好きなことにじぶんでみつけて、きっとできるとおもいながらどりよくしたいです。

【本の題名】 『おどる詩 あそぶ詩 きこえる詩』（富山房インターナショナル）

【すすめたい相手】 家ぞくへ

2年 菅沼 詩乃さん

このしは、四さいのかな子さんが書いたしです。

わたしも学校を休んだ後は、そういう気もちです。行きたくなかったけれど行ってみたら、お友だちがよってきてくれたので、うれしくなってなみだがでちゃいました。そのとき、わたしはわかりました。だいてくれたお友だちもおたがい気もちがうれしいと思えたからです。なので、このしを読むと、すごくかんどうしました。しをかいたかな子さんはとてもすごいと思います。

わたしは、このしが大好きです。このしは、あんしんできるすごいしだと思います。ふたりともなかよしなので、お友だちはうれしいとおもいます。

【本の題名】 『ありがとうを届けに』（小学館）

【すすめたい相手】 だいすけさんへ

2年 菊川 旭陽さん

このおはなしは、やさしいことばでかいています。

この本を読んでいると、ともだちと外で花をもつあそびをしたことを思い出します。ぼくは、つんだ花をともだちにあげました。心があたたかく、うれしい気もちになります。みんなとあそんだ時間は、いつまでも心の中にあります。

ぼくがみんなとあそんでたのしかったのは、「おにごっこ」です。ともだちとあそぶと心があたたかくなります。ほいくえんのときにあそんだことをよくおぼえています。また、たのしかったほいくえんにいきたいです。そして、ちひろ先生やけいこ先生に会いたいです。

### 【第3学年】

【本の題名】 『ラヴ．ユー．フォーエバー』（岩崎書店）

【すすめたい相手】 この本を知らない人へ

3年 田中 陽菜さん

わたしはこの詩を読んで、温かい気持ちになりました。

なぜかというと、(いつまでもどんなときも、わたしが活着ているかぎりあなたはずっとわたしの赤ちゃん)と、温かな言葉を使っているからです。

わたしも温かな人になりたいです。もっと人にやさしくできたらいいなと思いました。わたしが大人になって子どもをそだてることになったら、『ラヴ．ユー．フォーエバー』にでてくるお母さんみたいにやさしく温かいお母さんになりたいです。かなしいときでも、この詩を読んで温かい気もちになってほしいです。

【本の題名】 『にげて、さがして』（赤ちゃんとママ社）  
【すすめたい相手】 がんばっている人に  
3年 金子 千華さん

はじめに、この本を読んだとき、なんで足があるのかがわかりました。歩いたり、走ったりいどうするためだけだと思っていました。

でも、この本には足がある理由が書いてあって、なるほどと思いました。

とくに、わたしがなるほどと思ったことは、「まもってくれる人、わかってくれる人をさがして、その人の所に行くために、足がある」と書いてあったところです。

もう一つは、「やばいものからにげるため」に足がついているとわかったことです。

これからわたしは、やばい人からにげながら、やさしい人を見つけたいです。わたしと同じようにがんばっている人に読んでほしいです。

#### 【第4学年】

【本の題名】 『北原白秋詩集』（ハルキ文庫）  
【すすめたい相手】 妹へ  
4年 佐藤 叶芽さん

わたしは、『ひとつのことば』という詩が大好きです。この詩から大きな力をもらいます。

はじめ、いろいろな詩を読みました。そして、目に入ってきたのが『ひとつのことば』です。詩を読んだとき、一つの言葉が人の心を変える力があることを知りました。

もしも、私が言葉によって、悪い気持ちを人にもたせるようになったとしたら、この『ひとつのことば』を思い出して、気をつけることでしょう。

この詩を読んで、言葉が人の心をかなしませてしまうことを知りました。そして、言葉で人をきずつけることは、とてもとてもわるいことであることも知りました。ぜひ、いっしょに登校する妹にも読んでもらいたいです。

【本の題名】 『マジック入門』（KADOKAWA）  
【すすめたい相手】 マジックのことを知りたい人へ  
4年 佐久間 綾さん

あなたは、マジックが好きですか？マジックは練習するととてもおもしろいです。マジックのおもしろいところをしょうかいします。

この本は、マジックのことを詳しく書いてあっておもしろいです。かん単なマジックから難しいマジックまで、初級者から上級者まで楽しめます。こつやかん単にできる方法、そして、れきしについても分かります。29このマジックがのっているの、いろいろなマジックにちょうせんすることができます。まちがいさがしなどもあり、マジック以外でも楽しむことができます。ぜひ、ためしてみてください。

この本はシリーズがたくさんあるので、どの本から読んでもおもしろいです。

## 【第5学年】

【本の題名】 『金子みすゞ ほしとたんぽぽ』（JULA出版局）

【すすめたい相手】 「自分」ってなんだろうと思う人へ

5年 大熊 清菜さん

私は金子みすゞさんの詩の「わたしと小鳥と鈴と」をおすすめします。なぜ、この詩にしたかというと、「わたしのようにはならないけれど ほかの小鳥と鈴もわたしと違っていい」というところがいいと思ったからです。

わたしにも自分のいいところがあるところがあるんだなと思います。「鈴と小鳥と それからわたし、みんなちがって みんないい」もいいです。わたしたちはみんな、それぞれに心や体をもっているんだよと言われているような気がしました。

また、金子みすゞさんの詩は、他にもたくさんいい詩があります。ぜひ読んで詩を味わってください。

【本の題名】 『日本の名作童話「注文の多い料理店」』（岩崎書店）

【すすめたい相手】 童話が好きな高学年の人へ

5年 坂本 春乃さん

あなたは、日本の童話の中で何が好きですか。教科書でもあまり載ることのない名作をこの本、『日本の名作童話』シリーズで知ることができます。

いろいろなシリーズがあるので、自分が気になる童話をえらんで読むことができます。

たとえば、『注文の多い料理店』を読んだとき、この本には、別の話も載っているので、童話の輪が広がっていきます。

友達と好きなお話について、話し合うこともできます。もっと友達と仲が深まっていくことでしょうね。ぜひ、日本の童話シリーズを読んでみてください。

【本の題名】 『きになるともだち』（偕成社）

【すすめたい相手】 友達となじめないあなたへ

5年 浅田 柚菜さん

私が友達となじめていないあなたへこの本を紹介したのは、私が1年生のときにひっこしてきて、クラスの人たちとなじめなかったからです。

私が「遊びに入れて」と勇気を出して言ったとき、「今、遊んでいるから。」と言われて、とてもショックを受けました。そのとき、私の背中を押してくれたのがこの本でした。

この本を読んで、友達をさそう方法を考え、やってみました。

「私と仲良くしてくれませんか？」と友達に聞いたら、「いいよ。」と言ってくれて、友達になることができたのです。

それから4年がたちました。今ではとても仲良しです。なので、これからもみんなとけんかなく、楽しく学校生活を送りたいです。

【本の題名】 『いのちいっぱい 相田みつを』(ダイヤモンド社)

【すすめたい相手】 はなれてくらすお兄ちゃんとおねえちゃんへ  
5年 江間 大珠 さん

ぼくのすすめたい相手は、お兄ちゃんとお姉ちゃんです。なぜなら、ぼくは相田みつをさんの詩を読んで、すごく応援してもらっている気持ちになったからです。そして、この詩を読んで、ぼくはサッカーの練習でコーチの話を意しきするようになりました。

ゆめに向かってがんばっているお兄ちゃんとお姉ちゃんに読んでもらい、二人のゆめがかなうといいなと思いました。

だから、ぼくは、この詩をはなれてくらすお兄ちゃんとお姉ちゃんにすすめたいです。

そして、ぼくも、ゆめに向かって根っこを深く、広く伸ばしていけるようにがんばります。

## 【第6学年】

【本の題名】 『ますますざんねんないきもの事典』(高橋書店)

【すすめたい相手】 進化に興味がある人へ  
6年 飯塚 大耀さん

この本は、いきものの進化を知ることができる本です。この本のいきものたちは残念なところがあります。でも、それはいきものの進化だということが分かりました。例えばシマウマやコアラなどのさまざまないきものにも残念なところや進化している部分があります。いきものも残念なことで進化していると思うので、あなたも残念なことがあってもそこから成長していくことと思います。

ぼくも自信があまりなかったです。この本を読んで、自信をもちたいと思うようになりました。これもぼくの心の変化だと思います。

残念なことがおきてもそこであきらめないで、ちょっとずつでも成長すると思うことが大切だと思います。

【本の題名】 『A I ってなんだろう』(旺文社)

【すすめたい相手】 未来の自分へ  
6年 長田 和樹さん

僕がお薦めする本は『A I ってなんだろう』という本です。なぜかという僕が大人になっている頃には、A I が発達してすごく便利な生活になっていると思います。そのA I に囲まれた生活の中で、A I のことを知っておいた方が生活がより便利になるし、A I と人間が共存することができるからです。

それに、この本は、今からでもA I のことを知ることができるし、未来にはどのようなA I があるのかとか想像しているとワクワクしてきます。だから、僕はこの『A I ってなんだろう』という本を未来の自分にお薦めします。そして、僕は未来の自分がA I について詳しくなっているといいなと思いました。

【本の題名】 『本が好きになる』(旺文社)

【すすめたい相手】 将来の自分へ

6年 長田 琴美さん

大人になったあなたは、読書をしますか。今の私は読書をするのが好きです。もし今、本をあまり読まないと答えているのなら、仕事が忙しいなどの理由があると思います。けれども、この本では、本の種類、便利さ、楽しさを知ることのできる本です。本をあまり読まない人でも、この本を読んで、改めて読書がとても大切なことだと知ることができます。読書をするすることで、想像力、発想力、つまり感性が豊かになり、人の気持ちが分かるようになります。この本を読むことで、本の大切さを知り、本を読むほど上手に人と関わることができるということを知ってもらいたいです。そして、将来、この本で学んだことを上手に生かしてもらいたいです。

【本の題名】 『ノラネコぐんだんそらをとぶ』(白泉社)

【すすめたい相手】 失敗をしたことがある人へ

6年 岩野 澄空さん

あなたは失敗をしたことがありますか？人は誰しも失敗をします。しかし、失敗をした人にも種類があります。それは、失敗から逃げる人と向き合う人です。

この本は、失敗してしまったノラネコぐんだんがやってしまったことと向き合い、壊してしまったものやお店のお手伝いなど、失敗と向き合おうとしていることがよく分かる話です。

一度失敗から逃げてしまうことはあります。僕だって逃げたことは何度もあります。だけど、ノラネコぐんだんのように失敗と向き合っていることがよく分かる人間になりたいです。ぼくは、ぼくと同じ失敗と向き合いたい人がいると思います。今でも失敗することはあるけれど、僕は逃げずに失敗と向き合っています。

子供たちの作品を読むと心が温かくなります。五感を働かせた素直な思いが発揮されているからだと思います。

令和4年度は、「小さな学校の『強み』を土台に、自然に恵まれた学習環境を生かした体験活動と読書活動をつなぎ、『豊かな感性』と『深い思考力』の育成」をテーマに取り組んできました。そして、令和5年度は、「読書体験と表現活動を柱に『豊かな感性』を育む教育活動の創造」をテーマに取り組んでいます。

子供たち一人一人が読書活動に取り組み、自分の内面を見つめる活動を「読書体験」とし、読書を楽しみ、それを通して自分の中で起こる様々な変化を自分自身が感じ、それを表現することで自分自身を深く見つめることを大切にしているのです。

「豊かな感性」を育むには、それぞれの子供たちが外界(図書を含む)から受けた刺激を自分ごととして感じ取り、深く考え、その思考をつないで新たに形成した意味を自分の言葉で表現することが大切な活動となります。そうした観点からも、この「お気に入りの一冊をあなたへ 読書推せん文コンクール」への取組は、とても有効な手立てとなったのではないかと考えます。

さあ、楽しい夏休みを迎えます。夏休みでは、親子でいろいろな体験を楽しんで欲しいと願います。そして、「豊かな感性」を育んだ子供たちとの再会を楽しみにしています。